

開催
8/31
(日)

第39回

真室川町防災訓練

開催地区
及位地区

※午前6時に町内全域で、午前8時に役場のサイレンが鳴ります。
◎役場総務課 総務・危機管理担当
☎62-2111(内線2112)

郷土の英傑 鮭延秀綱物語 ⑨



九 長谷堂の戦い(出羽合戦) 上

慶長五(一六〇〇)年六月、徳川家康は自らの圧力に従わない上杉に業を煮やし会津征伐が始まる。出陣した家康が下野国小山で石田三成の挙兵を知って反転西に向かう。天下分け目の「関ヶ原の戦い」が始まった。一方出羽合戦といわれるもう一つの関ヶ原、「長谷堂の戦い」が開戦。上杉氏と最上氏は天正年間から邪魔な存在だった。

まず上杉の知将、直江山城守兼統が九月十三日最上領に入り、畑谷城(現山辺町)を攻め落とし、兼統は十四日に山形の間一里程の八幡山に陣を取った。そして十五日、志村伊豆守の長谷堂城(一万一千石、山形城の北東八キロ、上杉に対する備えの要地)をおよそ二万の軍勢で取り囲んだ。一方、義光(よしかみ)は秀綱に副将を命じ三千の軍勢を加勢した。秀綱はこの軍勢で長谷堂に向かえば、伊豆守の兵ともみ合いになると考え、深川(現本沢川か)を越えたところに陣を置いた。そして馬取りばかりで長谷堂城に乗り入れ、伊豆守と申し合わせ陣に帰った。

伊豆守は申し合わせ通り、頃合いを見て約一千五百の軍勢を引き連れて城から打って出た。ほどなく戦いは始まり、一進一退となった時、秀綱が横合いから攻めかかり、上杉の一隊を追い崩して被害は少なく勝ち戦となった。しかし、兼統の軍勢と比較すると半分にも足らず、最後には負ける厳しい戦いだと誰もが推察できる状況であった。その厳しさから義光は、伊達政宗

へ援軍を要請した。政宗は義光の妹の子で、叔父甥の間柄であったが、仲が悪くこれとした付き合ひもなかった。しかし、義光の長男義康と政宗が仲良く、義康は仙台へ行き援軍を要請した。政宗は鉄砲百挺と伯父の伊達上野に百五十騎ほど与え援軍を遣わしたという。

二十四日、兼統が八幡山に少数の兵を残し、他の軍勢で長谷堂を攻撃した。その日の戦いは激しく敵味方に数多くの手負い、討ち死にが出た。

また秀綱の子供で左衛門秀義は十五歳であった。秀義は長谷堂に出陣したいと申し出たが、秀綱はまだ早いと相手にしなかった。しかし、秀義は自分一人でも出陣する様子だったので、秀綱はやむを得ず五十〜六十人の兵をつけて出陣させた。秀義はさんざんに攻められ、秀綱が駆けつけたが苦しい戦いを強いられた。

(真室川町歴史研究会)



長谷堂城跡公園案内看板

表紙の紹介

歩いて発見!最上川の魅力

7月5日(土)、真室川小学校(校長・齊藤秀二)環境委員会の児童20名が、山形新聞社主催「最上川200キロを歩く」に参加しました。大蔵村大蔵橋から合海排水樋管までと戸沢村砂子沢橋、古口排水機場までの堤防を歩き、国土交通省の職員の方から川に設置されている標識などについて説明を受けたり、堤防の除草を行うラジコン式の草刈り機の体験操作をさせてもらったりして、川に関する知識を学びました。児童たちは、最上川の堤防を歩き体験することで、大自然の魅力や川を守っていく大切さを実感しました。

